

もど子と人婦

號五第卷八十第

感 雜 丁 園

5

今は如何なる時か。聖代泰平の治に浴して、花に若葉に又しても忘れようとするけれども、今は之れ、言ふまでもなく世界の大亂の最中である。而して、世界の大戦争は、たゞに戦線に於て砲火を以てのみ行はれて居るのではない、實に各國民の精神的緊張を以て行はれて居るのである。國民の精神的緊張は國民各個の職務上の精神的緊張に他ならぬ。我が日本も、今日砲火を以ての戦闘にこそ参加して居ないが、此の精神的緊張の戦ひに於ては、一日も休止することの出来ない戦ひをして居るのである。吾等幼児教育者も亦、此の戦ひの中心者たるはいふまでもない。

國家の意識は其の將來といふことを離れて意識せらるゝものではない。國家の存在は其の永遠の連續の意味に他ならぬ。しかも、所謂天下多事の時に際しては、其の現在の應對に之れ忙しくして、往々にして思ひを明日に置くの餘裕を缺くことなきを保し得ない。家忙しくして子弟の教養を忘れ、國忙しくして兒童の教育を忘ることあるは、又しても陥り易き現在の子の弊である。たゞ眞に大憂あるものゝみ此の弊に墮ちない。のみならず寧ろ却つて、今日の念の爲に明日に備へ、現在の難の故に將來を思ふ。家忙しき時、殊に子弟の教養に意を用ひ、國忙しき時、殊に兒童の教育に力を注ぐ。皆此の大憂の士の最も眞實なる心懸けである。

あの可愛い、頬、あの房々しい垂髪、遊戯、玩具、童話、唱歌、幼稚園の世界は、何時とても愉快の世界、和樂の天地である。吾等は出来るだけ美しく歌ひ、出来るだけ高く笑ひ、彼等の遊びの中に、出来るだけ我れを忘れなければならぬ。それが吾等の貴重なる職務である。しかも思へば吾等も亦今や、國家將來の安危の爲に、精神的緊張の戦ひに參して居る戦士である。殊に其の戦ひの最も重要な方面を擔當して居るものである。而して、此時必要な精神的緊張とは吾等の職務上の精神的緊張に他ならぬ。

嗚呼、今や國家大切の時なり。國家の爲に、實に國家の爲に、子等と共に美しく歌ひ、高く笑ひ、樂しく我を忘れて遊ばんかな。(倉橋生)